

# 令和6年度 まちづくりの方針

## ～新しい杉戸への挑戦～

2月13日(火)、令和6年第1回杉戸町議会定例会の冒頭、窪田町長は、令和6年度の施政方針と予算編成方針を表明しました。

施政方針とは、これからの町政運営における基本的な考え方と、主な施策を示すものです。今回の特集では、施政方針の概要と、新年度に取り組む主な施策を紹介します。

※町長が表明した施政方針を、一部要約しています。

**問合せ** 総合政策課 政策行革担当 内線209  
財政担当 内線272



はじめに、令和5年度を振り返りますと、本年元日に発生した能登半島地震では、最大震度7の激しい揺れと津波が北陸地方を襲い、甚大な被害をもたらしました。この地震により犠牲となられた方々に深い哀悼の意を表するとともに、今なお厳しい避難生活を余儀なくされている多くの被災者の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

また、世界に目を向けてみますと、イスラエル軍とパレスチナ・ハマスの軍事衝突のほか、侵攻開始から2年が経過したウクライナ情勢など、出口の見えない人道危機に、多くの方々が胸を痛めていることと

これに加えて、地球規模で進む気候変動は、我が国においても猛暑やゲリラ豪雨等の異常気象をもたらし、大規模な風水害のリスクが高まるとともに、農作物の不作や漁獲量の減少等が懸念されています。

これらの、ウクライナ情勢や気候変動等を背景とした、エネルギー価格の高騰や物価高は、恒常的に社会経済を圧迫し、町民の日常生活や事業者の経営活動等に多大な影響を与えた年であつたと痛感しているところであります。

その一方で、明るいニュースも数多くありました。メジャーリーグで活躍する大谷翔平選手が、2回目のMVPを満票で獲得し、夢の実現に向かって着実に前進するその姿は、町政の舵取りを託された私にとっても大きな刺激となり、改めて身の引き締まる思いがいたしました。



### 第6次杉戸町総合振興計画

まちの将来像「みんなで育てるまち すぎと ～自然とやさしさがあふれるまちへ～」の実現を図るための、8つの未来像を施策の柱にまちづくりを展開しています。

- 未来像1** まちぐるみで子育てに関わり応援できるまち
- 未来像2** 子どもたちに未来を拓く力を育むまち
- 未来像3** 生涯を通じて学び、郷土に愛着を持てるまち
- 未来像4** 自らの健康を守りながら安心して暮らせるまち
- 未来像5** 地域がつながり、安全で災害に強いまち
- 未来像6** 魅力ある産業を育み、発信できるまち
- 未来像7** 機能的で自然と調和した快適なまち
- 未来像8** 信頼される行政運営を推進するまち

▼この表紙が目印  
令和3年度から令和7年度までの前期基本計画が掲載されています。ホームページにて閲覧できるほか、総合政策課窓口にて有償配布しています。(1部1,000円)



また、新型コロナウイルス感染症は、5月から法令上の位置づけが5類に引き下げられ、少しずつではありますが、コロナ禍前の日常を取り戻しつつあります。当町においても、恒例のイベントである「杉戸夏まつり」や「古利根川流灯まつり」のほか、新たに「杉戸町商工祭」を開催するなど、町民の笑顔に触れる機会が増えたことを、心から喜ばしく思う次第でございます。

さて、令和6年度は、杉戸を更に魅力ある町とするため、第6次杉戸町総合振興計画に掲げた未来像の実現に向けた取組と、公約に掲げた施策等を着実に進めながら、活気あるまちづくりを推進してまいります。

まず、町の玄関口である東武動物公園駅東口通り線や、私の公約でもある下野久喜線の整備事業は、まさに未来への投資であります。中・長期的な効果として町

の魅力や知名度を向上させ、町が更なる発展を遂げられるよう全力で取り組んでまいります。

また、未来を担う子どもたちの成長を町全体として応援するため、出産・子育て世帯の経済的負担を軽減する取組を拡充いたします。出産・子育て世帯への積極的な支援は、移住・定住による人口増の機運を高め、町の生産年齢人口の増加による社会活動の好循環を生み出すための起爆剤です。人口減少対策の一環としても、子どもたちの明るい未来を応援する施策に力を入れてまいります。

更には、持続可能な地球環境を次の世代へと引き継いでいくため、ゼロカーボンシティを宣言し、地球温暖化対策を加速させてまいります。その一例として、公共施設の省電力化や、再生可能エネルギー普及のための支援等を行うほか、新